

2019年4月21日 「崎山比早子講演会」  
終了後の質疑応答の内容。

＜質問：アイソトープ治療とは？＞

放射性ヨウ素ががんの原因にもなりますけれども、大量の放射性ヨウ素を体の中に入れると甲状腺の細胞はヨウ素を取り入れる性質がありますから、放射性ヨウ素をどんどん取り入れるわけです。がん細胞になっても、その細胞が甲状腺細胞の性質を失うくらい悪性になると放射性ヨウ素を取り入れませんが、それほどにならないければ放射性ヨウ素を取り込み、その細胞は殺されるわけです。そのために放射性ヨウ素をたくさん飲ませてがん細胞を殺すというのがRI治療です。そうするとその人が線源になり、ものすごい放射線を出してしまう。ですからたくさん飲ませた人は鉛の部屋に3日くらい、ヨウ素が排泄されるまで入れておくわけです。小さい子は一人で全ての事はできませんからそのような治療はできないのですけれども、ある程度大きくなったら、看護師さんも親族の方も誰も入れない部屋に3日とか4日とか入れて、排泄されるまでそこに置いておくという非常に過酷な治療法です。線源になるくらいですから放射線に弱い組織がダメージを受けて、例えば顎下腺なんかもやられて唾が出にくくなったり、涙腺がやられて涙が出なくなったりとか、いろいろな副作用が出る場合があります。ですからなるべく早いうちに手術し、RI治療の必要がないようにする方が良いのです。

＜質問：甲状腺がん以外の疾病、影響、障害が出ているか？＞

福島ではほとんど報告されていません。甲状腺がんだけです。最近日本で、2011年以後心臓疾患が増えたという論文が出ています。その論文には地域差が書いてなくてわからないのですが。また睾丸が外に出ない、停留睾丸という疾患も増えているという論文が出ています。

＜質問：東北や関東の甲状腺がんのデータはあるのか？＞

東北や関東の甲状腺がんのデータはないです。市民が、例えば生活クラブとかパルシステムとかに入っている方が希望者を集めて甲状腺の検査をしている、そういうグループがあります。行政が主体で甲状腺の検査をしているところもいくつかあります。しかし政府として福島県以外で甲状腺の検査は一切やっていません。

＜質問：四巡目の検査でがんの発症が減ったがこのまま減っていくのか？＞

わからないですね。チェルノブイリでも子どもの甲状腺がんが増えだしたのは5年以降です。日本では最初に検査を広くしましたから、小さいがんも見つかって手術した方もいらっしゃいます。これからどうなるのかについては私にもわからないし誰もわからないのではないですかね。

＜質問：LNTモデルの疫学的証明の実例は？＞

時間の関係でLNTモデルを証明するデータをご紹介しなかったのですが、たくさんあります。例えば、自然放射線ががんの原因になるという論文がスイスから2015年に出ています。そのデータは200万人の16歳以下の子どものデータで、1mSv増加するごとに脳腫瘍とか白血病が4%増えるようになっていてLNTモデルを証明するデータです。それから、日本は医療被ばくが多いんですけれども、子どものCT検査によってがんが増えるというのはイギリスからも出ています。オーストラリアから2013年に出た論文では、CT検査は線量が一回につき4.5mSvなのですが、1回のCT検査で1.2倍くらいがんが増える、2回3回とやると発がん率も増えるとなっています。そういうデータはたくさんあります。それは全部2012年以降に出ている。先ほどご紹介した低線量ワーキンググループは新しく出たLNTモデルを証明するデータの前、2011年12月に報

告を書いている。その後、こういうデータがたくさん発表されたにもかかわらず、専門家であるのに新しいデータを全部無視して低線量ワーキンググループの結論をずっとリピートしているというのが現状です。

#### <質問：甲状腺がんは放っておいても成長しないという主張は？>

そう言っている阪大の高野先生は県民健康調査検討委員会とその下部組織である評価部会の両方の委員を務めている、山下先生の影響を受けている方です。彼が大阪で市民対象の講座を開きました。私はネットで見たのですが、いちばん最初に「山下先生が『放射線はニコニコ笑っている人には影響が来ない』と、うまいこと言いますね」とおっしゃっていてびっくりしました。後に見たらその箇所は消えていました。彼は甲状腺芽細胞説を唱えています。甲状腺芽細胞というのが胎児のときにあって、そういう細胞ががん化するので早く小児甲状腺がんになるが、そういうがん細胞は大人になると増殖を止めるので放っておいても大丈夫だという説です。でもその芽細胞を見た人は誰もいないんです。彼自身も芽細胞説を出しているにもかかわらず、自分の研究で芽細胞を研究していないんです。私は彼の論文を調べたんですけど、自分で芽細胞説を出したのであれば、それを研究するのが研究者ですが、一切やっていないんです。芽細胞は証明されていないんです。彼が甲状腺検査の縮小を唱えているわけですけれども、根拠がない芽細胞説を根拠にしてそういう説を唱えていて無責任だと思うんですね。人の論文を引用して話すんですけど、都合がいいところだけしか見ない。評価部会で部会長が「高野さんの論文の読み方はちょっとバイアスがかかっています。そういうふうには読めませんね」と、ネットで放映している評価部会でそういうふうに言われているんです。彼はいろんな人の論文を紹介しますが、私もその読み方がおかしいと思います。ですから高野さんの言うことは信用できないと私は思います。

#### <質問：安定ヨウ素剤の入手方法は？その代用としてイソジンの使用は？>

安定ヨウ素剤は今、ネットで自由を買えます。薬局では医師の処方箋がなければ買えません。私は薬局で買ったことはないのですが。イソジンについては大阪の先生が10倍くらいに薄めて飲んだそうです。最初はネズミに飲ませて大丈夫だとのことでご自分でも飲んでみたらいいです。うがいに使うものですから体に毒ということはないと思いますが、薄めたからといって何回も飲むとちょっとわからないですね。その先生も1回しか飲んでいないし、何回も飲んではいないと思います。だからやっぱりヨウ素剤を持っていたほうがよいだろうと思います。

#### <質問：なぜ放射線安全論が世界に広がるのか？>

原子力発電所は世界から消えていく、これからどっと増えることはない。なぜかという、高いですよ。それから非常に危険なものであることはみんながわかっていますし、自然エネルギーのコストがどんどん下がっていますから、自然エネルギーと原子力エネルギーの競争にはならないですね。ですから原子力は衰退していきだろうと思うのです。

でも、原子力発電の使用済み核燃料とは100万単位の単位で消えません。これはずっとあるものです。政府側としては微量の放射線を怖がるのは困るわけです。ですからこれから、安全論はどんどん増えていく。日本でも事故前よりも後のほうが安全だ、安全だという声は高くなっていくし、学校で教えているのも露骨になってきていますよね。事故以前よりも放射線の危険性に対しては露骨に安全だと言っている。それは目の前に放射性物質があって、これはどうしようもない。今除染もやっていますが、フレコンバックも100万袋以上ある。これが目障りだからといって、それを解いてせつかくまとめた汚染土をふるいにかけて、飯館村なんかではそれを畑にしているんですね。そこに作物を植えて

作物の中にどのくらい放射能が入っているのかを調べる。もし入っていなければ食べさせるといことになるのかもしれませんが、それを「実証事業」という仰々しい名前をつけて、飯館村ではやっている。他のところでは、道路の基盤とか堤防とかそういうところにせっかく集めたものをまたばら撒いている。日本中にばら撒くわけですよ。市民が反対しなければそれはどんどん進められます。今問題なのはセシウム137ですけど、半分になるは30年かかるわけです。私たちが死んだ後も放射能は依然としてあるわけです。それはどうしようもないのです。だから、政治家としては安全だというふうに言うのがいちばん手っ取り早いということになる。日本の政治家はだいたい安全だと言っている。20mSvは安全だと言ってどんどん帰しているくらいですから。だから安全論が高まるのは必然的な力ではないかと私は予想しています。

#### <質問：なぜ本当のことがマスコミで報じられないのか？>

マスコミが本当のことを言わないということもあります。やっぱり官邸の力があります。例えばNHKが官邸に不都合なことを放映するとすぐ電話がかかってきて圧力がかかる、キャスターがすぐ交代させられるという現状があるわけです。NHKは私たちのお金(受信料)でやっているわけですから、本当は私たちの意見を聞いてほしいわけですけど、官邸の意見を聞きちゃう。私たちも自分たちが主権者として声を上げなきゃならない、NHKの怪しい人事があったら、それはおかしいんじゃないかと声をあげて変えていく。そういう声が多ければマスコミもそれを聞かなければならなくなると思います。新聞だって良い記事を書いてくれる新聞を買う。消費者の力を示し、消費者が主権者だ、消費者が決定する、そういう認識を私たちが持つことが大事じゃないかと思っています。